

平成29年度 第2回 大阪府立豊中高等学校 学校協議会

日 時 平成29年10月20日(金) 17:00～18:40

出席者 協議会委員 山崎 彰 越智 克司 増田 敬彦 杉本彩二郎 岩本 宏司
校 長 平野 裕一
事務局 藤井 秀雄、高山 泰司、上林 卓也、朝倉 淳
本校教員 松井 健大

次 第

1. 校長あいさつ 平野 裕一校長
2. 会長あいさつ 山崎 彰会長
3. 協議・報告

(1) 平成30年度 使用の教科用図書について

本校において、数種類の教科書の中から選定した結果について報告。

(2) 平成29年度 学校教育自己診断について

学校生活を充実させ学校をよくするため、学校教育に関するアンケートを生徒、保護者及び教員に対しそれぞれ実施し調査集約結果を次回の本協議会で報告予定である。

設問内容は基本的に変更していないが、イジメに関する設問を新たに追加した。

イジメというと長期間にわたり隠れて特定の生徒に対するものと捉えがちだが、平成18年に文科省はイジメの定義を見直し、単発的なもの、学校内外を問わず、被害生徒が精神的身体的にダメージを感じたものをイジメの定義として捉えている。

これはイジメ認識のハードルを低くすることで、早期に発見し重篤な事象に発展することを未然に防ぐことが学校に求められていると思っている。

調査データでは、大阪府のイジメ件数が他県に比べ少ない状況であり、府の取組として軽微なものも含めることにより、イジメ問題を早期に発見するため、このようなアンケートが続くことになっている。

その他4月にも安心で安全な学校生活というアンケートを実施し、秋にもまたイジメ問題に特化したアンケートを実施する。

【質疑】

○イジメは生徒間に限っているのか。

⇒生徒間に限定でなく、教諭によるものも含まれている。

(3) 平成29年度 学校経営計画の進捗状況について

進路を切り拓く学力の育成を掲げており、自学実習を促進し、校内外での学習習慣を確

立させるため、学習サポートプログラムを行い、新しい取り組みとして試験後の時間を使って、模試の問題を振り返ることを積極的に行った。

生徒にとっては模試の進路判定も大事だが、学校としては生徒が同じ問題の誤りを二度とせず、知識の定着に努めてもらうことが大事であると考え、新しく始めた。

本校は普通科と文理学科となっているが、来年度から全クラスが文理学科に広がることから、課題研究を受ける生徒が大人数となるため、これからの課題研究の展開について充実するため、実務的に行えるか、TA の活用などを含めた充実策の検討、また今後の論文の作成時期の検討なども含め、今後の課題研究の充実に向けて努めているところである。

進路第一志望の実現に関して、1・2年生徒対象の進路希望調査の集計途中経過を示す。第一希望大学なので私立大学の希望者は少なく、学校としてはやはり国公立を目指してセンターテストを受けて幅広く勉強に励むよう呼びかけており、国公立大学をはじめから目指さない生徒はあまり見られない。

キャリア教育の充実として、9月に1年生を対象に職業希望別進路講演会を開催した。同窓生15人に職業経験を語りかけてもらうことで、生徒に将来の職業を身近に感じてもらえるよう実施し、本校独自の事業である。

教員の資質を向上について、授業で自分の考えをまとめ発表する機会を充実させるため、豊高アクティブラーニングにより教職員が実施できる体制を確立するため、10月5日に大阪教育大学の教授を招き、「授業の『逆向き』の設計のすすめ」と題して研修を実施した。

内容としては、生徒にこの授業でどんな力を身に付けてほしいか、とまず最終目標を定め、そこから逆向きの発想を持ってそのためには何を教えたら良かに戻っていくという、目標が明確になる利点があるという講演会を実施した。

また、講演後には各教科に分かれて意見交換を行い、教員にとって外部の講師を招くことは新しい知識を得ることができ、大変有意義な研修だったと考える。

「志」の育成について、2年生の夏休みを中心にボランティア活動を行っており今年は市の広報誌に掲載された。クラブ単位で地域に出かけて、貢献できる。

地元地域に出かけて理解、支えてもらう学校というのも大事である。生徒にとって地域に貢献できることは非常に有益で、これから人生のいい経験になっていると考える。

進学実績の大事だが、公立の学校ということもあり、やはり地域から支えてもらえる学校づくりも大事と考えている。

体育大会、文化祭について生徒にアンケートを実施し、関わりの度合い、満足度は100%近い高い満足度であり、生徒の準備等も確実に行っている。

英語によるコミュニケーションについて、豊中在住の留学生との英語による交流会を予定し、生徒はあらかじめ日本文化を調べて、英語で話す。留学生は自国の文化を紹介することによって英語力や交流を深めることになっている。

SGH の中間評価が6区分中、第2区分であった。評価された点で大変喜ばしいかった

ことは、生徒の主体性を尊重し、能動的な学習展開が見られる。生徒が葛藤しながらまずテーマを見出し、計画を立てて、探究活動を行われた。海外研修のフィールドワークが研究課題に基づいて行われていた。イスラムの学習をインドネシアやマレーシアの NPO や大学と連携交流しながら、学習と交流がリンクした形で課題研究に取り組んでいたことが評価された。

また、教員相互の授業見学が実施され、課題研究の指導方法が各教科のアクティブラーニングの取組として波及した授業指導方法が一般の授業にも及んでいる点を高く評価された。

6月に世界レベルのコンテストである「サイエンスチャレンジ 2017」で入賞し、世界の場で発表できる生徒が増えつつある。

能勢キャンパスが有する農場を訪問し、SSH の学習や SGH 校であるので遠隔装置を使って互いに発表し合うことを実施した。

教員の資質向上に向けた取組みとして、新任の採用教員 4 人に対し週一回のペースで校内研修を実施しており、現時点で 16 回の実施となっている。

教職員に対する「働き方改革」に向けた取組みとして、教員の健康管理の観点から昨年、年間 800 時間以上の超過勤務時間を有する教職員 9 名おり、9 月時点で 800 時間の半分の 400 時間以上の教職員が 6 名いる。

本校では毎週木曜日を一斉退庁日と設けており、ノークラブデーにより早く帰るよう促しているが、一定時間を越えた教職員には産業医に診てもらおうよう促すなど管理職による指導助言を行うことにより、今後も教職員の勤務時間及び健康管理の徹底を図っている。

【質問】

○進路目標の設定で難関国公立大学 3 校としているようだが、同じ国公立大学でも例えば植物や動物に関することを学ぶのであれば北大に行きたいといった思いが他の大学にもあるのではないか。生徒がどんな大学で学びたいかをあまり絞らない方がよいのではないか。他の大学があることをもっと知ってほしい。

⇒全国の大学を調べようと思えば今の情報化社会でいくらでもできるのだが、生徒は自宅から通える大学へ進学したい傾向にあるように感じる。昔は東京の大学希望者はたくさんいたが、今は保護者も含め、遠方の大学に行きたがらないように思う。

○在校中の留学でなく、直接、卒業後は海外の大学に行く生徒はいないか。

⇒GLHS 校でもなかなか直接海外の大学に行く生徒は、現状としては厳しいようである。

○せっかく SGH で学んでいるのだから、日本の大学と言わず、これからは世界の大学を目指す生徒が出てくると思う。学校は幅広くサポートすることが必要だと思う。

同窓生の中に海外の研究を経験された方がおられ、その方の話を聞けば、きっと生徒の将来への視野が広がる。

⇒本校は生徒が卒業後どこに進学したかは把握できるが、進学後までは掴めていないが、同窓会では卒業生がどんな仕事に就かれているかは把握されていると思う。

本校では、職業別進路講演会を開催し講師に海外経験の方の話を伺える機会があれば、生徒は、海外の大学が身近に感じると思う。

同窓会としては以前から、より身近に感じてもらえるよう生徒の年齢に近い方を招くようにしている。

その際、生徒からの質問で海外駐在経験の方へは、英語のレベルはどれ位必要ですか。など生徒は真剣に質問していたのを見ると、やはり直接経験者から話が聞けることは有効であると思う。

また、本校では、NET と T-NET で外国人講師による定期的に英語による欧米型授業を行っており、授業で身近に感じられる。

○日本は大学卒業後、仕事についてから専門性を高めるために海外の大学に行くことが多い。また、比較的海外の大学の学費は高く、企業が大学費用を出すところが多く、ほかに国の支援もある。

⇒日本の企業に就職する際、海外の大学を出た人をどう評価されるのかが不明であり、不安な面もあるのではないか。

○やはり情報から得るだけでなく、海外を経験した方から直接聞くことが生徒にとって視野が広がることなので、同窓会としても支援していきたい。また、そのような方を紹介できるよう、講師探しを早い時期から取り組めるよう、協力していきたい。

(4) 大学入試制度変更に伴う新入生への対応について

現在の中学 3 年生から大学入学制度が変更され、少なくとも国公立大学を受験する際、高校 3 年生の 4 月から 12 月までの間に民間の英語検定試験を 2 回受けなければならないことになった。

本校の方針としてどの民間の英語検定試験を中心に指導していくか、どのようなスコアを目指すかの目標はこれから決めていくことになる。

3 年生の大学入試センター試験に照準を合わせて授業プログラムを組まれてきた。今までどおりでは制度変更に対応できないことになるので、英語科では 3 年間でどういう指導して、また新たに民間の英語検定試験のスピーキング内容も加わりことから、どういう指導が必要となるか。進路指導部としては従来の筆記試験と民間検定試験をどう組み合わせながら進路指導していくか。自治会部では現在の 6 月の体育祭、9 月の 2 日間の文化祭などの学校行事の時期で大学受験への影響は大丈夫なのか、とりわけ 3 年生が中心となってリーダーシップを発揮している中で、行事開催時期をもう少し前倒しをしなければならないかを検討しなければならない。

また、来年から全クラスが文理学科となるため、土曜日の午前中をどのように活用するか、例えばスピーキングのための即興型英語ディベートを土曜日に展開することで教員の負担を増やすことなく、生徒の会話力を身に付けていくことができるのではないか。

また、本校の特長として御承知のとおり学校行事が盛んであり、入試もこれまでどおり

頑張ってもらいたいく、どう再配置していくことが最良なのかを考えていくことになる。今月のサンケイリビングに GLHS の 10 校の校長がコメントを掲載されるが、豊中高校を新しい入試制度にも対応できる学校でありたいと述べさせてもらった。

本校は新 1 年生の入学前に 3 年後の入試対策の見据えた体制であることを示して受け入れたいとの思いで 2 学期最初の職員会議でも述べさせてもらった。

【質問】

○豊中高校の行事は充実している良さと受験対応をどうするか、難しい問題ですね。

⇒クラブ活動をどうするか、行事は 3 年生が中心となって盛り上げているなど課題もある。制度としてあるのだから、生徒が乗り遅れないようにすることが大切であると考え。

また、3 年生でできなくなった分を 2 年生で行うことなど今後、柔軟な発想も必要と考える。

学校としては、新 1 年生に対しこの大学受験改変をどのように対応していくか。時勢に乗り遅れてしまわぬよう、適切に対応していきたい。

○受験だけでなく、文化祭、地域といったバランスが取れた充実した学校生活を送ることを経験することが、将来、役に立つと思えるので、難しい問題であるが、適切に対応していただきたい。

⇒委員の方からも助言していただきたい。